



〒584-0078 ユーザーフラッシュ

大阪府富田林市太加 2-7-7

TEL/FAX:072-368-3135

E-mail user@ut-net.jp https://ut-net.jp

令和6年3月14日発行(第263号)毎月5日発行(特別号)

年間購読料 6,000円 発行所 株式会社ユーザー通信社 発行人 植村和人

精密測定機器
UNO 宇野株式会社
URL http://www.uno.co.jp/

愛知県豊川市)は2月16日、愛知県豊橋市のホテルアソシア豊橋にて「第1回定期時株主総会」を

オーエスジー株主総会

今期「売上高益の営業利益230億円めざす」

成長分野での販路拡大に注力

オーエスジー(本社)(愛知県豊川市)は2月16日、愛知県豊橋市のホテルアソシア豊橋にて「第1回定期時株主総会」を



▲株主懇談会での大沢社長

議石会長が感じられた。しかし、経済の底も見え

印象で、市況を見てもデフレ

の匂い(予兆)が感じられ

た。しかし、経済の底も見え

始めたとの声

が多く聞かれ

た」と回復への期待を述べた。次いで、議事の進行に移り、2023年11月期の同社の事業活動について、VTR上映も交えながら報告し

た。今後の見通しについて

は、先行きへの不透明感はあるものの、海外市場でのシェアアップを最重

要課題とし、グローバル

市場でのユーザー開拓と

「Aブランド製品戦略」を推進することで、一層の成長を目指す。22年11月期よりスタートした中

期経営計画にて、収益性

よりも強固な企業体质を

つくり、主力の自動車関連産業、航空機関連産業

のみならず、半導体・

G、ロボット・自動化関連

・機械部品、モビリティ(EV)、医療機器部品など

の成長が見込まれる微

細精密加工市場での販

路拡大と顧客拡大への取

り組みをアピールした。

華圏の停滞が続き減益に。海外売上高比率については、円安の追い風もあり、前期と比較して増加し、67%(前期は64.9%)となた」と報告した。

開催した。当日出席者数は93名(株主+オーエスジーリー)。はじめて、議長を務める石井は、議長挨拶に立ち、年頭に景気停滞が懸念される中国を視察訪問した際のエビソードを紹介。「欧米人の姿がほとんど見られず、海外

の会長が、議長を務める石井は、議長挨拶に立つ。しかし、経済の底も見え始めたとの声

が感じられた。しかし、経済の底も見え始めたとの声

が感じられた。しかし、絏済の底も見え始めたとの声

が感じられた。しかし、絏済の底

(3) 2024年(令和6年)3月14日(木)

機械・工具が好調 中計第2ステージは成長加速化へ

▲上から、古里社長、飯田会長、藤井本部長
(※PC画面のスクリーンショット)
具現化してい
ることに加え、
拠点や業務の
集約化による
コスト削減の効
果を得るなど、
着実に成果を
示している。」
人事面でも、
「7月からフル
サト工業、マル
カ、ジーネット
の人事・評価体



Digitized by srujanika@gmail.com

フルサト・マルカ HD 23年12月期決算

系を揃える取組みを予定しており、それに伴い24年度は1億3400万円の人物費増を見込んでいる」ことを明らかにした。

また物流や建設現場での2024年問題への対応については、「従来のフルサト工業とジー・ネットの物流施設を統合し、新たに57億円強を投資して、大阪・堺市に物流拠点「UNISOL L.C. OSAKA」を新設。スペ

ース拡大や新在庫カティリー等導入による作業システム導入による在庫効率向上や、新物流管理システム導入による在庫管施策強化などを展開し、2024年問題に対応する。ただ、当社グループの事業活動では建設現場での『時間外労働の上限規制』による影響が大きく、業界全体の今後の動向や対応について注視したい」との見解を示した。

勉強会開く
→リテラシー向上めざし

大陽西機工會

いつまでも
「昭和」思考は
続かない。

新しい力は新しいやり方で力を発揮する。
勢いある新世代の力をオールドパワーがしっかり支えて
次世代に引き継いでいく。
エーレックは、人生100年時代を見据えた
上村の価値観を理解していく。

【學勤者派遺事業】

【労働者派遣事業】

「フィールドメンテナンス事業」

【外 ルトスクリーン事業】



【営業者浮遊販賣業、アクトソーシング事業】株式会社エーネック

〒532-0024 大阪市浪速区西宮原1-8-23 日宣新大阪第2ビル 3階

本社 / 大阪 支店 / 名古屋・千葉

<https://www.a-rec.jp>





▲2030年長期ビジョン・目標にふれる
石井社長



▲伊藤常務がグリーン成長戦略を特別講演

岡本工作機械 2030年売上700億円達成へ 総合砥粒加工機メーカーとしてシェア拡大に注力

岡本工作機械製作所
(本社・群馬県安中市)
は2月7日、8日、9日の3日間、西部(大阪)、中部(名古屋)、東部(東京)の代理店会「2023年度P.S.G.会支部連絡会」を順次開催した。7日に

注額は1兆4865億円、24年は1兆5000億円を見込んでいると説明した後、「このうち研削盤の割合は7%弱で、約1000億円超の受注額になる。同社工作機械部門の国内外の割合は、国内43%、海外57%の比率。主力の平面研削盤は国内では50%超のシェアを維持しているが、高精度機種の拡販に加え、サービス部品の即納や機械のダウンタイムの減少などのアフターサービス体制の強化・拡充に尽力し、シェア拡大を図る」と述べた後、「好調業界による新市場の開拓をはじめ、環境対応・自動化・省人化等の付加価値ある提案活動を推進

実施された西部支部連絡会は、吹田市の新大阪江坂REIホテルで行われた。江連武彦国内営業部長が業界および会社の現況を報告した。日本工作機械工業会の23年の受注額は1兆4865億円、24年は1兆5000億円を見込んでいると説明した後、「このうち研削盤の割合は7%弱で、約1000億円超の受注額になる。同社工作機械部門の国内外の割合は、国内43%、海外57%の比率。主力の平面研削盤は国内では50%超のシェアを維持しているが、高精度機種の拡販に加え、サービス部品の即納や機械のダウンタイムの減少などのアフターサービス体制の強化・拡充に尽力し、シェア拡大を図る」と述べた後、「好調業界による新市場の開拓をはじめ、環境対応・自動化・省人化等の付加価値ある提案活動を推進

する」との営業方針を説明した。

Oの歴史と未来、「脆性材加工の需要」「EV産業における研削盤需要

明して、「OKAMOTO

ニートラルの実現に伴うグリーン成長戦略」経済と環境の好循環を作

るための産業政策」で、太陽光や風力発電等

も、日本製造業の成長戦

略の柱の一つと位置付け

られている半導体事業で

需要増が期待される脆

性材加工と研削盤の最

Vの急速な普及に伴い、ス、石英ガラス等の脆性

材料および加工機の需

求が高まっているが、脆

性材は碎けやすい特性

と解説。その上で、半導

体の使用分野や用途に応

じての脆性材料の特性に

密加工が求められている

のに加え、μレベルの超精

度P.S.G.会支部連絡会

を順次開催した。7日に

を

と語った。

最後に、石井常路社長

が閉会あいさつに立ち、

と語った。

と語った。